

ご迷惑をおかけします(2)ーサルパ類ー

不本意ながらご迷惑をおかけしております海生生物、今回はサルパ類です。

サルパ類は、一見すると透明な姿からクラゲに間違われがちですが、イソギンチャクなどと同じ腔腸動物であるクラゲ類に対して、サルパ類はホヤ類に比較的近い脊索動物です。また生態的にもクラゲ類とは異なった特徴を持っています。特筆すべきは、体内に作られた粘液質の摂餌網で餌となる植物プランクトンを濾過し、摂餌網ごと消化管に取り込むため、カイアシ類やクラゲ類などが利用できないような微細な餌も効率よく摂餌します。また環境条件が整うと非常に短期間で急速に個体数を増加させることができ、全長数mにもおよぶ群体を形成します(下図参照)。さらに個々の個体はもちろん、群体としても運動し、網などからの回避といった行動も一体化して反応します。

このような特徴から、日本海や瀬戸内海では、しばしばサルパ類が大量発生し、漁業や発電所の運転にも被害をもたらすことがあります。

(中央研究所 海洋環境グループ 山田 裕)

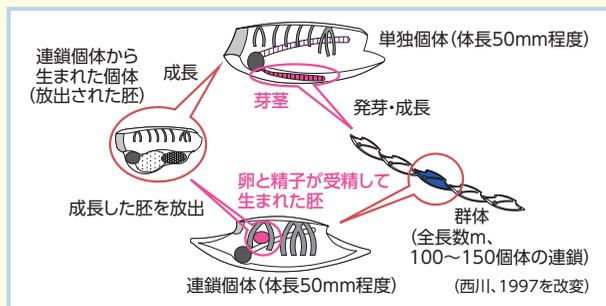


図 サルパ類の生活史

海生研は、発電所の取放水等が海の環境や生息する生物に与える影響を科学的に解明する調査研究機関として、昭和50年に設立されました。科学的手法に基づき、エネルギー産業等における沿岸域利用の適正化と、沿岸海域等の自然環境、水産資源、漁場環境の維持・保全に寄与することを目的として、学術調査研究を推進し、成果を公表してまいります。

海の豆知識 第74号

平成30年1月 発行

発行所

公益財団法人 海洋生物環境研究所

事務局 〒162-0801 東京都新宿区山吹町347 藤和江戸川橋ビル7階 ☎(03) 5225-1161

中央研究所 〒299-5105 千葉県夷隅郡御宿町岩和田300 ☎(0470) 68-5111

実証試験場 〒945-0017 新潟県柏崎市荒浜4-7-17 ☎(0257) 24-8300

海の豆知識に関するお問い合わせは、事務局までお願いします。

<ホームページ> <http://www.kaiseiken.or.jp/>



かいせいけん

海の豆知識

Vol.74

★★★ 魚名の由来 ★★★
(その9)



公益財団法人
海洋生物環境研究所

魚名の由来

(その9)

——戌(犬)にちなむ魚たち——

海とその生物にまつわる名前の由来についてお話ししましょう。
今回は、今年の干支である戌(犬)にちなんだ魚をご紹介します。

1 「コクテンフグ」

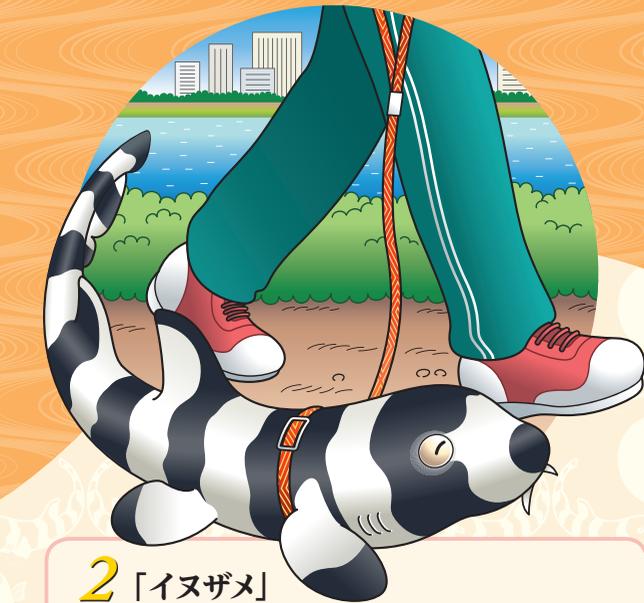
コクテンフグ(学名:*Arothron nigropunctatus*)は、フグ目フグ科に属する、太平洋やインド洋の水深50m以浅のサンゴ礁や岩礁域に生息するフグの仲間です。体長は20~30cmで、体色は褐色や黄色、灰褐色、青味がかったものなど様々で、その名前のとおり、はっきりとした黒色の斑が散在しています。また眼の周辺や吻端(口の周り)が黒っぽくなる個体も多くみられます。

このコクテンフグ、英語ではドッグフェイスパファー(Dog-face puffer, 犬顔のフグ)とも呼ばれています。犬に似た顔つきから、その名がついたようです。雑食性で、固いものでも噛み砕く歯をもち、甲殻類、サンゴ類、貝類などの動物や海藻類といった様々なものを食べます。また、縄張りに近づくモノは撃退する番犬のような性格も持っています。

フグの仲間特有の丸っこい姿と子犬のような顔立ちのため、観賞魚としても人気のコクテンフグですが、他の多くのフグと同様、肝臓に猛毒があるだけではなく、なんと筋肉にも強い毒があり、可愛らしい見た目とは裏腹に、とっても危険な魚です。

3 「イヌノシタ」

イヌノシタ(学名:*Cynoglossus robustus*)は、カレイ目ウシノシタ科に属する、いわゆるシタビラメの仲間です。南日本(相模湾や新潟県~九州沿岸内湾、瀬戸内海)、黄海から南シナ海までの大陸棚の水深20~115mの砂泥底に生息しています。体長40cm前後になり、平たい長楕円形で、全体にやや赤みをおびた姿かたちが、犬の舌に似ていることから、その名がつけられました。また、学名のイヌノシタ属を示す「*Cynoglossus*」も、ラテン



2 「イヌザメ」

イヌザメ(学名:*Chiloscyllium punctatum*)は、テンジクザメ目テンジクザメ科に属する、太平洋西部やインド洋の熱帯から温帯域にかけての潮間帯やサンゴ礁に生息するサメの仲間です。

体長は1mを超えますが非常におとなしい性格で、昼間は岩やサンゴの間でじっとしており、夜になると底生性の小魚や甲殻類などの餌を探して動きだします。胸ビレと腹ビレを使って歩くように餌を探す様子が、地面の匂いを嗅ぎながら歩く犬の姿に似ていることから、その名がついたとも言われています。また、成魚では全体的に茶褐色をしていますが、幼魚では明瞭な黒色の縞模様が見られます。特に吻端(鼻先)に黒い斑があり、正面から見ると愛らしい子犬の顔のようにも見えることも、名前の由来となっているかもしれません。

語で犬の舌を意味しています。

シタビラメ=フランス料理の印象が強いですが、産地では古くから安い総菜魚として、煮魚や干物として食されてきました。一般に流通上では、同じウシノシタ科に属するアカウシノシタ(学名:*Cynoglossus joyneri*)と混同されることが多いようですが、産地の一つである大阪湾では、イヌノシタは「赤シタ」、アカウシノシタは「青シタ」と呼ばれているようです。ちょっとややこしいですね。